

# 婦選会館ニュース

(財)市川房枝記念会女性と政治センター(Center for Women and Governance) 東京都渋谷区代々木2-21-11 婦選会館  
TEL 03-3370-0238 FAX 03-5388-4633 E-mail: fitikawa@trust.ocn.ne.jp http://www.ichikawa-fusae.or.jp

## ごあいさつ

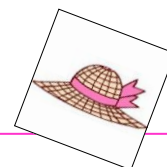
(財)市川房枝記念会女性と政治センター  
理事長 目黒 依子

2011年4月に発足しました現執行体制は、2年目を迎え、特別記念事業の本格化と当財団の新法人化に向けた課題の加速化に取り組んでいます。発足当初は、さまざまな活動の進め方について、執行チーム、事務局ともに戸惑いもありましたが、市川房枝記念会女性と政治センター設立の目標達成を委託された責務を果たすべく、理事会・評議員会ともども一丸となって、目標に向かって進むことに専念してまいりました。

2011年度の主な事業につきましては本ニュースにてご報告しておりますが、政治教育・人材養成の領域に新機軸企画を加え、継続企画においても女性の政治参画促進のための新しいニーズに応えるような視点を取り入れるなどの工夫や、参加者の拡大への努力をいたしました。また、研究領域では、女性国会議員基礎調査・データベース化という当センターならではの情報収集に着手し、前年度より懸案となっていた『女性展望』のリニューアルについても検討を重ねました。これらの企画運営の担い手のほとんどが無償ボランティアです。前年までに比べかなり整理された内容でしたが、事業と組織体力のバランスの改善が急務だといえます。2012年度事業の選考に当たっては、財団の目的に直結していること、財政上可能であることを基準とする方針で、企画立案者と執行部との話し合いを重ね、事業の厳選を試みました。また、テナント状況の変化にともなう収入減への対応など、執行チームにとっては大きな課題に直面した初年度でした。

2012年度は、特別記念事業の本格化と当財団の公益法人化のための申請に向けた作業で幕明けとなりました。この夏はその準備の山場です。新しい定款作成や申請に必要な議決のために、理事・監事・評議員の間では特殊な法律・行政用語や規約などについて解説を受けるなど、猛暑を凌ぐ汗かきシーズンです。秋には、特別記念事業委員会の知恵と情熱により実現の運びとなった展示室改修や記念シンポジウムが控えています。是非ご期待下さい。

皆さまのいっそうのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



### ＝ も く じ ＝

ごあいさつ	目黒依子	1
市川房枝生誕120年、没後30年、財団創立50周年特別記念事業について	日高みさお	2
2011年度の事業から		3
市川房枝政治参画フォーラム	住田啓子	3
新企画ワークショップを実施して	矢澤澄子	3
市川房枝研究会と女性史セミナー	伊藤康子	3
女性展望・女性展望カフェ	久保公子	3
財務報告		4

# 市川房枝生誕120年、没後30年、財団創立50周年 特別記念事業について

特別記念事業委員会委員長 日高みさお  
(当財団常務理事)

## ★2011年度実施事業

2011年から3か年計画で実施予定の「市川房枝生誕120年、没後30年、財団創立50年記念事業」の第1弾として、維持員のつどい併催で「リレートーク市川房枝を語りたい」を開催。市川房枝87歳の生涯に出会った方々10人がその体験を語り、参加者が紡ぎ繋げ、市川イズムの信念・素顔をしみじみと共感。「理想とするものを実践しようと常に試みた人・市川房枝」が各人の語り口から浮き彫りにされ、当財団が2009年秋に掲げた新しいミッション＝市川房枝の信念をふまえて、女性が民主的ガバナンスの担い手となるための拠点となる、というセンター設立の趣旨を共有した。



## ★2012年度決定事業

### ●市川房枝記念展示室改修工事

本事業は2007年に展示室改修指定寄付をいただき5年間実現できずに凍結してきた宿題であった。理事会・評議員会決議で本年度記念事業と決定後、特別記念事業委員会がチーム力で実施までに至った経緯を纏める。まず理想形を図面化。図面化は2008年耐震補強工事を依頼したシミズ・ビルライフケア社（以下シミズ）にご協力をお願いした。理想形のプランによる最初の見積額は資金条件からほど遠かった。予算の範囲内という命題を外さないで納得できる工事内容にしたい、収斂を重ねて7回のプラン修正をした。全体を森に例えると常に森の中の本一本の木を見てまた森を観察し実現化に近づけていった。施工業者・工事費については一社特命とせず2社からの相見積りをとった。4月から委員会はシミズと仁科謙太郎氏の誠意に満ちたご助言を得ながら進めていった。理想形から引き算を重ねては委員会で確認をし合い、図面変更・工事費の概算を取り直し、7月27日遂に実行できるという自信を得た。森を見れば不満もあろうが、いま必要な木は植えた。約束を果たせる時がきた。7月30日シミズへの発注書に理事長が調印。

コスモスの咲く秋、一新した展示室につどう皆様の笑顔の思い浮べて9月7日着工、完成予定は10月31日である。

### ●財団創立50周年記念シンポジウム

1962年財団創立から50年のときを経て  
—活動の評価と今後の目標（仮題）—

11月20日津田ホール決定

基調講演 緒方貞子氏

シンポジウム 堂本暁子氏 井上輝子氏 花崎哲氏

詳しくは近日お知らせします。ご期待ください。

### ●グッズの制作・発売 記念切手/80円・50円

マグカップ・クリアファイル・トートバッグ・絵ハガキ



現在の市川房枝記念展示室



特別記念事業特化寄付を  
申し受けます。ご支援のほ  
どお願い申し上げます。

## ★2013年度予定事業

●センターロゴ・略称の公募 ●財団50年史編纂・発行 ●大規模バザー

## 2011年度の事業から

### 市川房枝政治参画フォーラム:

#### 震災復興、地域主権改革、脱原発など政策研修の場

地域づくりの核となる無所属女性地方議員養成のための「市川房枝政治参画フォーラム」(1994年発足当時の名称:市川房枝女性の政治参画センター)は2011年度も時宜を得たテーマで企画、実施した。第1回のテーマは未曾有の3・11と4月統一地方選挙直後の5月、「民主主義再生への試練—大災害の課題と住民パワー」。宇野重規教授は大災害現場映像を示しながら課題解決への道筋を示し、議員からは自粛ムード下での住民参加型選挙の実践事例も語られた。第2回はいのち・くらしを基本とした地域復興「震災復興へ—新たなまちづくりを目指す」。大災害と女性、地方議会の役割、女性議員の健闘事例と議論が続き、男女平等政治参画の重要性を共有した。

12年度第1回は「住民視点の地域主権改革」、講師による現状分析と真の二元代表制について、続いて現職議員の議会改革の事例発表へと続いた。夏期セミナーの、ポスト・フクシマ世代に焦点を当ててチェルノブイリの検証(女性の生殖健康・価値観)は脱原発が新しい思想として未来社会を築くヒントとなった。8月には若い女性の政治参画を願うプログラムを実施。10月は社会保障を取り上げる。乞うご期待。

(同フォーラム企画運営委員会委員長 住田啓子)



### 新企画ワークショップを実施して:

#### ジェンダー平等政策をどうつくるか—第3次男女共同参画基本計画を手がかりに

同ワークショップ(2011年7月9・10日実施。写真)は、参加者が、ジェンダー平等政策(男女共同参画政策)づくりの基になるジェンダー統計、アンパイドワーク、ジェンダー予算についての基礎知識を学び、政策づくりや政策の点検・評価に活かせるように、「大きな目標」を掲げて企画された。女性差別やジェンダー格差の実態把握に欠かせない「ジェンダー統計」、固定的なジェンダー分業の見直しや公正な福祉社会づくりに必須の「アンパイドワーク(無償労働)」の「見える化」、政策・予算プロセスにおけるジェンダー主流化を実現するための重要なツール「ジェンダー予算」について、日本での情報の共有や共通理解はまだまだ不十分である。



そんな中の「新企画」であったが、全国各地からこれまで当財団の事業に参加したことのない人たちが多数集まり、「地

域の男女共同参画基本計画を見直す上でタイムリーだった」など好評価をいただき、新しい課題への取り組みの効果がみられた(詳細は『女性展望』2011年10月号参照)。この企画を元に今年度は、新企画ワークショップ「現場からジェンダー平等政策を点検する—ジェンダー予算を手がかりに」(9月15日)を実施する。女性たちの政策提言力向上へのスプリングボードとなるように願っている。(担当理事 矢澤澄子)

### 市川房枝研究会と女性史セミナー: よりよい社会をめざし、女性の歴史を検証

2005年発足、08年に『市川房枝の言説と活動 年表で検証する公職追放1937-1950』(写真)を出版した市川房枝研究会は、現在年表Ⅱ(1893-1936)の原稿をまとめ、あと一息でみなさまへお目かけのところまで来た。婦選会館図書室で、市川の10代以降の日記や手紙下書きが発見され、怒ったり背伸びしたりしながら力を付けていった市川の実像がわかる。そして婦人参政権獲得のための疲れを知らない活動が、毎日毎晩積み重ねられている姿も見ることができる。

『女性展望』で報告している聞き取りも30人を超えた。有権者同盟や市川記念会関係者、国会議員、社会運動活動家たちの話から、「市川さんがいたら」と思う時の解決方法のヒントを読み取っていただきたい。

また日本の女性の生活や思想を大きくとらえる女性史セミナーを、総合女性史研究会と共催で開いた(5回)。歴史を変える生き方を資料を読みながら考える時間になった。市川房枝も私たちも、そういう中の一人ということを感じずにはいられない。なお今年度も、10月から「女性が政治とどうかわってきたか」をテーマに開講される。(研究会主任研究員 伊藤康子)



### 女性展望・女性展望カフェ: 情報で結ぶ・人を結ぶ

## 女性展望

『女性展望』は“女性と政治”をメインに、女性たちの活動に役立つ情報を正確かつ簡潔に知らせようと、市川初代理事長が1954年に創刊した月刊誌。

「3・11」で揺れた2011年は、震災翌月の4月号に巨大地震後の課題を、阪神淡路を経験した識者に男女共同参画の視点で緊急提言願うなど、毎月様々な視点からの特集は好評だった。

読者層は創刊号から読者歴〇カ月の方まで幅広いが、昨年春には読者アンケートを実施。さらに『展望』検討委員会、同リモデル検討作業部会で定期刊行物としての性格、内容、体裁、編集体制などを様々な角度から議論し、誌面刷新に向けて準備を進めている。

インタビューなど『展望』誌上で協力いただいた方をゲストに、トークと茶菓を楽しむ「女性展望カフェ」も好評開催中。昨年度は6回開催した。アットホームな雰囲気でお話できるのが魅力となっている。(事務局長 久保公子)



# 財務報告

## 一、2011年度決算報告諸表(2011. 4. 1—2012. 3. 31)

### 収支計算書

### 正味財産増減計算書

(単位:円)

科目	金額
<b>収入の部</b>	
維持員会費収入	3,826,850
事業活動収入	20,429,638
寄付金収入	1,104,462
特定資産取崩収入	12,237,182
当期収入合計	37,598,132
前期繰越収支差額	1,436,811
収入合計	39,034,943
<b>支出の部</b>	
事業活動支出	17,716,623
管理費支出	9,996,974
特定資産取得支出	8,551,465
当期支出合計	36,265,062
当期収支差額	1,333,070
次期繰越収支差額	2,769,881

(単位:円)

科目	金額
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
維持員受取会費	3,826,850
事業収益	20,429,638
受取寄付金	1,104,462
経常収益計	25,360,950
(2) 経常費用	
事業費	17,555,982
管理費	9,996,974
経常費用計	27,552,956
当期経常増減額	△ 2,192,006
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 2,192,006
当期一般正味財産増減額	△ 2,192,006
一般正味財産期首残高	142,038,440
一般正味財産期末残高	139,846,434
<b>II 指定正味財産増減の部</b>	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	30,792,770
指定正味財産期末残高	30,792,770
<b>III 正味財産期末残高</b>	
	170,639,204

### 貸借対照表

(2012.3.31現在)

(単位:円)

科目	金額
<b>I 資産の部</b>	
1. 流動資産	
流動資産計	10,574,419
2. 固定資産	
1. 基本財産	16,440,970
2. 特定資産	58,551,903
3. その他の固定資産	88,545,511
固定資産計	163,538,384
資産合計	174,112,803
<b>II 負債の部</b>	
1. 流動負債	
負債合計	3,473,599
<b>III 正味財産の部</b>	
1. 正味財産	
1. 指定正味財産	30,792,770
2. 一般正味財産	139,846,434
正味財産合計	170,639,204
負債及び正味財産合計	174,112,803

## 二、2012年度収支予算表(2012. 4. 1—2013. 3. 31)

(単位:円)

科目	予算額
<b>収入の部</b>	
基本財産運用益	11,500,000
受取会費	4,000,000
事業収益	12,347,000
受取寄付金	1,200,000
雑収益	2,330,000
特定預金取崩収入	9,100,000
他会計からの繰入金収入	23,000
当期収入合計	40,500,000
* 前期繰越収支差額	0
収入合計	40,500,000

(単位:円)

科目	予算額
<b>支出の部</b>	
事業事務費	6,990,000
事業直接経費	19,515,000
基本財産運営経費	1,760,000
管理運営費	11,844,000
特定預金積立金支出	200,000
他会計への繰入金支出	0
予備費	191,000
当期支出合計	40,500,000
当期収支差額	0
次期繰越収支差額	0

\* 2011年度決算前の予算額